

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800325		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんでん堂グループホームたるみ塩屋		
所在地	神戸市垂水区塩屋町一丁目6番31号		
自己評価作成日	2018年8月13日	評価結果市町村受理日	平成30年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2018年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様の安心・安全な事業所内での生活を支援するべく医療連携には特に力を入れている。毎月の往診前には主治医・訪問看護師・提携薬局へ事前情報を送付し往診当日は薬剤師同行にて実施。往診結果を即訪問看護師に送付する事により、リアルタイムにご入居者様の心身の状態を共有する事が出来ている為ズレがなく最適な対応が可能となっている。
ご家族様との関係性の構築にも力を入れており訪問時はこちらの事、毎月のレターにて写真やイラストを交えながら日々のご入居者様の様子をお伝えしている。2か月に1度発行している広報誌も好評であり、分かりやすく楽しくユーモアあふれる広報誌として定着している。
季節ごとの行事にも力を入れておりクリスマス会や夏祭りはもちろんの事、テラスでのバーベキューや外出支援も行なっている。テラスの花壇には季節に応じた色とりどりの花を育てたりイルミネーションを施したりと日々の生活の中にもさまざまな心地よい刺激を取り入れるように努力している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

瀬戸内の穏やかな海が目の前に広がり、明るく心身共にリラックスできる環境である。鉄道や国道に面した建物であるが、室内は騒音を感じない静かな空間となっている。居室入り口の表札プレートは、自宅の玄関を思わせ利用者は自宅にいるような環境で過ごしている。事業所が発信する写真入りの『しおかせ通信』により、利用者の表情や喜び、楽しさが利用者や家族にとっての思い出作りとなっている。事業所は看取りについての指針を示し、本人家族を中心に医療関係者との連携を密に、体制を整え受け入れている。昨年度看取りをした事は、職員の大きな自信となり今後も利用者家族の安心に繋がる事になろう。隔月の運営推進会議も多くの参加者を得て、研修会や部会の報告書等々の書類は見やすく整理されている。職員は、自分や家族が利用したい事業所を意識し、サービスの維持向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に密着した介護サービスの運営方針」において「地域に根ざした介護サービスを提供し、笑顔で安心と活気のある生活が継続できるようサポートします。」という理念を掲げている。また、常に管理者及び職員はご入居者様の立場になり理念に掲げている自分自身や自分の親が受けたいサービスであるかを考えて行動するようにしている。ご入居者様だけでなくご家族様や関係のある方々においても丁寧に対応する事を心がけている。	法人の理念に加え、事業所の理念を掲げ職員は名札ケースに入れ携帯している。入職時には法人全体で新人研修を行い、理念を意識付けしている。毎月の職員面談時は、「自分の親だったら..。」と、アドバイスし自分や家族が利用したい事業所を目指し業務にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オープン当初より運営推進会議に自治会長の参加をいただいている。地域包括支援センターの職員、訪問看護師にも常に参加していただけるようになっている。また地域ケア会議、連絡会に参加し地域住民、民生委員、垂水区医療介護サポートセンター、あんしんすこやかセンターの方々と交流を図っている。	自治会に加入し、地域ケア会議には地域住民の参加があり、事業所の情報や認知症についての情報発信も行っている。11月には3人の中学生がトライやるウィークに来所予定であるが、子どもを含む世代間交流は少ない。自治会主催の海岸清掃にも参加した。	保育園や幼稚園への交流会実現に向け、引き続き働きかけの継続を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議、連絡会等で得た情報を運営推進会議内で発信したり自治会長、エリア内施設関係者と情報共有を行ない認知症についての理解を深める努力をしている。また、外内部問わず様々な研修や勉強会を実施し知識を深める努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議内で日々の取り組みや事故報告及びヒヤリハットの報告、また今後の運営方針などをすべてをオープンに情報開示している。併せて頂いたご意見や質問にはきちんとお答えしサービス向上に活かす努力をしている。	運営推進会議は自治会長、地域包括支援センターや訪問看護ステーション、利用者家族の参加も多数あり、取り組み等報告の他活発な意見が出される。事故報告の割にヒヤリハットが少ないとの意見から、様式の簡素化によりヒヤリハット報告が多く出て改善につながった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、地域包括支援センター主催の研修や会議に参加し、情報の収集に努めている。その際、地域住民の方々とも交流を図り事業所への理解を深めていただく努力をしている。また、運営推進会議にも参加頂き、助言等を頂戴している。	区の医療・介護サポートセンターより様々な情報を入手する。地域ケア会議に参加し地域包括支援センターからの助言や情報交換、グループホーム連絡会や管理者会議、リーダー会等に参加し、市町村との連携を図っている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時研修及び「身体拘束適正化検討委員」を中心に3か月に1回「身体拘束適正化検討研修」を実施。「身体拘束の手引き」を使用しながら様々な意見交換を行なっている。また、「身体拘束適正化検討委員会」を同じく3か月に1回開催している。	玄関前は交通量の多い国道に面している為、安全上やむを得ず電子ロックで施錠しているが、外出希望があれば散歩に付き添っている。夜間ポータブルトイレ使用者に、センサーマット使用者が1名いるが、身体拘束適正化会議にて外す方向で現在検討中である。	施錠については可能な限り、短時間でも外す方向で検討してほしい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修部会を中心に事例検討やDVD等を用いながら虐待研修を実施している。また虐待に繋がらないよう危険を早期発見するべく職員からの聴取を行い徹底防止に努めている。どんな小さな事でも疑問に感じたり悩んだ時には相談しやすい環境作りを行う努力をしている。	居室入り口に表札を掲げているが、名字で呼ぶ事を拒否する利用者には名前のみ記載し、呼ぶときも名前にさん付けで呼びかけている。職員全員が言葉かけに注意し、お互いに注意しあえる関係性が出来ている。管理者は職員にストレスがないか表情観察や会話に努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の研修や、施設内で行なっている研修で権利擁護に関する講義を行ない学んでいる。成年後見制度はパンフレットを用い、施設にとっても手続等を円滑に進められる制度である事を理解するようにしている。	入所前より弁護士を保佐人に付けている利用者はいる。入職時の新人研修で権利擁護について、制度の必要性について勉強している。全職員に対し今年10月、地域包括支援センターに依頼し研修会を開催する予定である。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に十分面談を行い施設で出来る事と出来ない事についてきちんと説明をしていると共に締結前・締結時・締結後に関わらず全ての質問やご意見には丁寧に対応を行なっている。契約締結時には契約書類を全て読み上げ、都度質問の時間を設けている。	契約時は2～3時間かけて、理解を得るまで説明している。家族からの「共同生活が困難になった時とはどんな状況になった時か？」等の内容に関する質問にも丁寧に答えている。ターミナルや看取りについては、契約時に文書で内容説明し同意書もらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においては多くのご家族に参加頂きご意見を頂戴している。ご家族様にも参加していただける行事も増やし、常日頃から職員とご家族様との積極的な交流を心がけ信頼関係を築く努力をしている。	運営に関する意見はないが、台風20号の時家族から心配する問い合わせがあり状況を報告したが、21号の時は事業所より状況を伝えた事により、家族から安心の声が聞かれた。運営推進会議に参加されない家族にも、『しおかせ通信』と一緒に運営推進会議録を送っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を実施し個別に意見を聞く機会を設けている。また、日頃から職員との関わりを常に持ち意見や提案を聞くようになっている。出勤時の表情や勤務中の言動を観察し気になる時は声を掛け話をする時間を設けている。ご家族様からの質問やご意見には丁寧に耳を傾け対応を行なっている。	職員からは、外出企画や行事に関する積極的な提案がよく出される。内容によっては法人との話し合いの必要もあるが、外出レクや個別の外出が多くなった。夏にはスイカ割りの提案があり実現、多くの利用者の参加があり、たくさんの笑顔が見られた。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事評価制度を設けており意欲を持って業務にあたるように評価をし報酬につなげている。本社は管理者と月一面談を実施し問題点の共有や解決策を話し合うなど働きやすい職場作りに努めている。何か問題が生じた場合は迅速に対応し早期解決に向けて尽力している。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の個人的な取り組みにはなるが実務者研修等の資格取得について積極的に勧めておりソフト上で配慮を行なっている。随時対象者のは声掛けを行ない意欲の確認を行っている。また、事業所内外の研修に出来るだけ多く参加していただくよう情報を公開している。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所との合同研修に参加したり、外部研修に参加する事で交流の機会を得てサービスの質の向上につなげている。また、状況に応じて臨時で訪問看護師等に依頼し指導いただく事で知識や技術の向上につながっていると感じる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に行うご家族からのヒアリングやご本人との面談を通じてニーズを把握するよう努めている。また、ご入居後もご本人様と向き合いご本人様の声に耳を傾けるよう心掛けている。ご本人様との意志疎通が困難な場合はご家族様へのヒアリングを十二分に行い質の良いサービスを提供出来るよう努力している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に行うご家族からのヒアリングおよび面談を通じて関係作りに努めると共にご家族様の声にも耳を傾け丁寧に対応し信頼していただけるよう努めている。また、職員には常日頃から笑顔で丁寧に対応するよう指導している。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からのヒアリングや面談時に得た情報を基にご本人様にとって適したサービスを紹介するよう努めている。また、適宜職員間で話し合いをしご本人様に適したサービスが行えているかを考える機会を設けている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が主体となる支援を心がけ、ご本人の能力に応じて日常的な家事を共に行なっている。布巾たたみや洗濯物たたみが日課となっておられる方もいらっしゃる。 また、生活の中で常に自立支援を念頭に随時モニタリングを行いながら支援の工夫を行なっている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事に参加いただくよう働きかけている。また、電話連絡を行ったり来訪時にはお話しをさせていただき日頃のご様子をお伝えしている。また、ご家族様の最近のご様子などもお話ししてくる方が多い為丁寧に傾聴している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	一時帰宅されご家族と住み慣れた自宅で食事を楽しまれたりドライブに出掛けられたり近所に住んでおられた友人が訪ねに来てくださったり通っておられた教会関係者の方が定期的に訪ねてくださっているご入居者様もいる。	隣接する有料老人ホームに在住のご主人が毎日来所される。職員の中学生の娘さんとその友人、個別に友人の来訪もある。入所前から行きつけの美容院へは家族が付き添い行っている。利用者が以前から通っていた教会関係者の定期的な来所もある。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が常にご入居者様の個性や性格を把握するように努め、ご入居者様同士の関係が築ける様に随時介入している。他者とのコミュニケーションが苦手なご入居者様にはお手伝いを共にして頂けるよう促している。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療依存度が高くなってしまわれた場合のご退去等には病院や移り住まわれる先にご本人様の情報共有をしっかりと行い配慮していただけるよう働きかけている。また、ご退去されて半年以上経った現在でもそのご家族様からのお電話や訪問、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あらかじめご入居前にご本人及びご家族からご意見を伺い意向の把握に努めている。困難な場合はご家族のご意向を尊重している。 また、ご入居前にご利用しておられたサービス機関にもヒアリングを行いより深く情報を得る努力をしている。	入所時、原則本人から意向を聞き取っているが、多くは家族からの聞き取りになる。日常的には会話の中から思いをくみ取る努力をしている。外出の希望に沿えない場合は、洗濯たたみやおしぼりたたみなど、手仕事などの役割と傾聴に心がけている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面談で現在の生活の状況やこれまでの生活歴等を詳しく聞き取り馴染みの関係や生活環境等の把握に努めている。また、ご入居された後でもご家族様や関連する方々から僅かな情報でもお聞きしたことは大切に共有するよう努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子や体調の変化を観察しきとんと記録している。チームケアを徹底出来るよう常に情報共有に努めている。また、往診医、訪問看護師、薬剤師などの医療関係者との情報共有は密に行い報連相の徹底を行なっている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に関係者から情報収集をしカンファレンスを開催。課題やケアについて意見やアイデアを出し合いご本人様の現状に即した介護計画を作成している。ご家族様にはきちんと意向をお聞き出来る限り反映できるよう努力している。	介護計画書は、各階の計画担当者が、本人、家族からの聞き取りにより作成し6か月ごとに見直している。利用者担当制を導入し、モニタリングは担当職員を中心に行い、医療関係者の意見を反映し、ケアマネや計画作成担当者が作成する次期介護計画に繋げている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や申し送りノートに気づき等を記録し出勤時に確認している。様子の変化や気づきはまず管理者・計画作成担当者・リーダーが情報共有を行ないケアの内容を検討するよう努めている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時など、ご家族での対応が難しい場合の送迎や付添いを行なっている。また、身内の結婚式に参列される場合など日常生活以外の場面での付き添い、身支度などの支援も行っている。ご入居者様の希望をお聞きし外食や外出支援も行なっている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の生活の中で近隣の公園に散歩に出掛けたりケーキ屋さんや飲食店、スーパーに買い物に出掛けたり地元のお祭り見物に出掛けたりタクシーなども利用しながら全員外出を行ったりとその方に合った方法で行っている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については基本的には事業所の提携医療機関を主としているがご希望があればこれまでのかかりつけ医を利用して頂く事も可能としている。他の医療機関受診の際は提携医療機関の主治医との連携もきちんと図れるよう細かく情報共有を行なっている。	ほとんどは、納得のうえ法人の協力医療機関を主治医としている。緊急時も含め、日常的な健康管理を図っている。利用者の日々の状態変化や服薬調整等、家族とは密な情報交換に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が月4回訪問しご入居者様の健康管理や健康チェックを行なっている。医療的処置や医療的相談事項もその都度している。日々の生活の中での少しの変化や気になる所なども相談しアドバイスを頂戴している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室との情報交換や相談を通じてご本人の状態把握に努めている。また退院前に病院関係者とカンファレンスを行ないそれに基づいた施設内でのカンファレンスを行なうことでスムーズな再入居を図っている。	できるだけ入院回避に努めているが、骨折等やむをえない入院があった場合は、主治医を通じた医療機関との速やかな連携体制が確保されている。早期退院のための事業所での見守りやリハビリ体制等の受け入れにも対応している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を定めている。入居時にご本人、ご家族と話し合い、事業所でできる事を十分に説明している。また、ご入居者様に変化があった場合は早急にカンファレンスを開催し方向性を決定。チームとして支援を行っている。	事業所の方針については契約時に説明し、家族等の意向も確認している。すでに看取り事例があり、現在、該当者もいる。職員の経験差はあるものの、訪問看護師による研修を通じて、利用者一人ひとりに即したケア方法や関わり方を学んでいる。特別なこととして捉えるのではなく、自然な形で見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様の急変時や事故発生時の対応をまとめた対応マニュアルを整備している。また、経験の浅い職員には丁寧に指導、説明を行うようにしている。まずは慌てず落ち着いて行動する事を徹底しており事後のフォローもしっかりと行うようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の備えとして、年2回火災による防災訓練として避難訓練を行なっている。1回は日中想定で行い、もう1回は夜間を想定した訓練を行なっている。また、非常災害時対策訓練として水害・地震・津波での対策避難訓練も実施している。	この夏の台風による大雨と強風の経験を教訓とし、あらためて防災対策のマニュアルや対策の見直しを検討している。運営推進会議での助言等も受け、改善策を家族等に報告、説明予定である。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修や配属後の事業所内の研修の際、ご入居者様は介護サービスを利用される大切なお客様であること、また人生の大先輩であることを含め尊敬の念を持った丁寧な言葉づかい・態度で接する事を伝えている。	入職時研修にて法人理念等の理解を図るとともに、接遇研修を毎年の研修計画に組み入れ、周知に努めている。職員には、職場とプライベートでのけじめの徹底を図るよう注意喚起している。利用者個々の好みや思いを常に優先するようしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で積極にご入居者様と関わることで言葉では表現できない方も表情や仕草でご本人様の好み、望んでおられることを把握できるように努めている。ご入居者様との密な関わりの中で思いを紐解いていく事の重要性を共有するように努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事・入浴はご入居者様の意向を尊重し可能な限りご本人のペースにあわせて柔軟に対応している。また、お昼寝や散歩などご希望があれば都度対応している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は季節感に合わせたものをご用意いただくようご家族に依頼している。着替えの服も選べる方には選んでいただく。また、お化粧が好きなご入居者様にはお化粧レクを開催しメイクアップを楽しんでいただいている。毎月訪問理美容の日を設けヘアカットや顔そりなどをいただいている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際の盛り付けや食後の下膳、洗い物、食器拭きなど可能な限り一緒にしていただくように努めている。また、食べたい物のリクエストにお応えできるよう日常的に聞き取りを行っている。	委託業者から半調理の物が届き、ユニット毎に手を加え、利用者の身体状況や好みに応じて調理法や盛り付け等を工夫している。月2回の食レクや手作りおやつでは、リクエストメニューを利用者も一緒に調理し、みんなで食べる。普段はクラシックなどのBGMを聴きながら、食事を楽しんでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居面談時の食事アセスメントで食生活の習慣を把握している。食事量や水分量が少ない時は嗜好品なども利用しながら十分な量の摂取を促している。また、どうしても食事では十分な栄養摂取が困難なご入居者様には主治医・訪問看護師等に相談し栄養補助の観点から様々な物を利用及び工夫を凝らす努力をしている。		

自己	者三	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。月4回の歯科往診時には歯科衛生士より指導を受けたり相談をする事でその方に合った口腔ケアが出来ている。また、口腔ケア・マネジメント計画書を作成、「口腔ケアに係る技術的助言及び指導報告書」を毎月頂戴する事により知識の習得にもつながっている。	
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居面談時の排泄アセスメントで排泄の様子を把握している。入居後は日頃の様子を観察した上でより正確な排泄パターンを把握し対応している。可能な限りトイレで排泄が出来るように支援している。また、羞恥心や不安感には十分配慮し声掛けの工夫や職員変更など柔軟に対応できるようにしている。	自分でトイレに行っている人もいるが、職員が声かけ、誘導する場合は、周りへの配慮に努めさりげなくお誘いするようにしている。利用者固有の名称で呼ぶこともある。夜間は、ポータブルトイレを使用している人もおり、その人の習慣や希望を優先している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操を勧めたり散歩等の運動を勧めたりしている。また、トイレに座っていただき腹部マッサージを行ったり野菜ジュースやホットミルクを提供したりホットタオルを使用し刺激をする事でスムーズな排便に繋がっているケースもある。	
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の意向やペースに合わせた入浴を提案している。入浴剤を使用したり過去にはゆず湯などを実施し季節を感じる入浴も実施した。また、同姓介助を心がけ介助時は羞恥心に十分に配慮し寛いでいただける環境づくりに努めている。	週2日をベースとしたおおまかな予定はあるが、その日の希望に応じて柔軟に対応している。職員から声かけすることが多いが、無理強いせず気持ち良く入ってもらえるよう、時間も個々のペースに合わせている。ターミナル期に入った場合は、負担の少ない清拭で対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居後の環境の変化が出来るだけ軽減されるよう馴染みの物をお持ちいただくよう促している。また、眠れない時等はホットミルクや白湯を提供したり隣で傾聴したりと寄り添い、落ち着いて入眠できるような支援をしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人の記録ファイルにファイリングし今服用している薬についてすぐ確認出来るようにしている。薬の変更等はその都度申し送りノートに記載し情報共有に努めている。また服薬内容に変更があった場合は様子観察を強化し主治医、訪問看護師、薬剤師に情報を伝え、服薬調整に活かす取り組みを行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様からの聞き取りなどで趣味や嗜好を把握し塗り絵、折り紙や歌、卓球やトランプなどご入居者様に合わせた支援を行っている。また得意分野については日常生活の中で可能な限り役割として担っていただけるようにしている。特に新聞たたみや洗濯物たたみ、清拭タオルたたみなどは役割として確立出来ている方も数名おられる。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園に散歩し鯉に餌をあげたり、甘いものが好きな方にはケーキ屋やフードコートに行きお好きなスイーツを選んでいただいたりお寿司や麺類がお好きな方には外食レク、お祭りがお好きな方には地元のお祭りに参加など可能な限り個別の外出支援を実施している。	気候のいい時期には、公園に散歩に行ったり、要望に応じてドライブがてら買物に行っている。全員そろっての外出だけでなく、個々や少人数での外出機会が、徐々に増えてきている。地元のお祭りへの参加も利用者の楽しみとなっている。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として金銭の預かりはしていない。必要なものが生じた場合はホームで立て替えをし、入居料と一緒に請求させて頂いている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の子供さんから1週間に2通～3通写真入の葉書が届くご入居者様がいらっしゃる。また、奥様から届いた葉書にお返事を書いて頂くような支援も実施した。塗り絵を施した年賀状を作成し可能な方には塗って頂きご家族様にお出しする支援も実施した。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を設置して快適な空間作りに努めている。また、季節感のある掲示物を作成し飾っている。花壇には季節ごとの花を植えたりイルミネーションを施したりと素敵な空間作りに力を入れている。	四角や丸テーブルを利用者の状態や関係性に応じ柔軟に配置するなど、工夫している。テレビコーナーのソファには、利用者がくつろいで休んでいる。オープンキッチンには、大型のカウンターが備えられ、利用者も作業しやすくなっている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの一角にソファを設置しフロアからほんの少し離れたところでお過ごしいただける工夫をしている。車椅子や椅子からソファに移乗し少人数でテレビをご覧になる方もいらっしゃる。また、適宜配置を見直しその時々でソファやテーブルの位置を変更する時もある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ住み慣れた場所の雰囲気に近い環境にするために使い慣れた家具や寝具類を持参いただけるよう配慮しご家族様にも協力を依頼している。また、ご入居後の適宜ご自宅で使用しておられた物を持参いただいたりしている。	小型のクローゼット、ベッドが備え付けとなっている。利用者が自宅で使っていた机や整理だんす、小物入れ等が、使いかたよく配置されている。その人の動線に応じ、あぶなくないよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様個々の能力に応じた支援を可能な限り行う工夫をしている。洗濯物の取り入れや畳み、掃除機がけや拭き掃除、花の水遣りや配膳トレーの消毒など職員の声掛けや付き添いにて安心安全な中での自立支援が出来るよう取り組んでいる。		